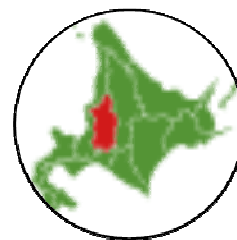


第6章 地域における環境保全の取組

＝【空知】＝



1 「エコそらち」の形成に向けた環境配慮意識向上の取組

空知総合振興局では、地域主導型の環境配慮型社会を目指して、地域重点プロジェクト『地域で取り組む「エコそらち」の形成』を展開し、環境配慮意識の向上を図る取組を行っています。

平成24年度は、右表の事業を実施し、エコライフに関する普及・啓発を行いました。

今後も様々な普及・啓発を継続し、住民の皆さんのさらなる意識向上を図ることとしています。

事業	内容	実施回数
そらちエコラウンジ	空知総合振興局におけるパネル展	6回
そらち移動エコラウンジ	パネル展等の開催	14回
環境体験学習	こども自然塾、自然観察会の開催	2回

■そらち移動エコラウンジ



■こども自然塾（植樹）



2 マガンとの共生に向けた取組

宮島沼は、7万羽のマガンが飛来するなど、繁殖地であるシベリアと越冬地の日本を往来する水鳥にとって、国際的に重要な中継地であるため、平成14年にラムサール条約湿地に登録されました。

しかし、飛来するマガンの増加や農業形態の変化に伴い、沼周辺で小麦等への食害が地域課題となっています。

このため、空知総合振興局では、地元関係者等の協力を得ながら「代替採食地」※1の実証実験や「落ち穂田んぼ」※2の確保等により、飛来するマガンと環境に配慮した農産物づくりとの共生を推進しています。

※1 代替採食地：小麦畑の代替餌場として、粕の散布等をした耕作地

※2 落ち穂田んぼ：わら搬出、耕起等の作業時期や方法の工夫により、落ち穂を残した水田

■代替採食地で採餌するマガン



3 新エネルギー導入推進の取組（南幌町）

空知管内の市町では、地域の特色に根ざしたさまざまな環境への取組が進められています。

今回は、農業から発生する副産物の稲わらを、化石燃料の代わりに新エネルギーとして活用している南幌町の取組をご紹介します。

南幌町では、稲わらを原料とするペレットを製造し、南幌温泉に設置しているペレットボイラーで燃料として利用しています。この取組を地域一体となり推進するため、住民の皆さんに新エネルギーや環境に関する理解を深める取組を行っています。

平成 24 年度に実施した取組は以下のとおりです。

○南幌町新エネルギーに関する学習会

開催日 平成 24 年 6 月 29 日

場所 南幌町立南幌小学校 南幌町立南幌中学校

内容 小学校 4 年生から 6 年生までの児童、中学校 1 年生から 3 年生までの生徒を対象に南幌町出身の東京大学大学院の橋本和仁教授を講師に迎え、新エネルギーに関する学習会を開催しました。



○南幌町新エネルギーシンポジウムの開催

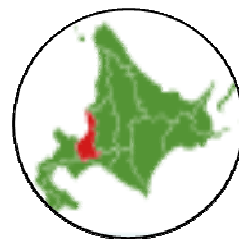
開催日 平成 24 年 11 月 18 日

場所 南幌町保健福祉総合センター

- 内容
- ①バイオマスボイラー見学会
 - ②最新のエネルギーに関する講演会
 - ③シンポジウム（南幌町の取組、バイオマスを中心としたまちづくり）
 - ④パネルディスカッション
 - ⑤新エネルギー展
 - ⑥電気自動車試乗会



＝【石狩】＝



1 「エコ・パートナーシップ北広島」の地球温暖化防止活動

「エコ・パートナーシップ北広島」は、市民レベルで取り組むことができる活動を通して地球温暖化防止意識の啓発と身近にできる防止対策を普及・推進することを目的として、平成 16 年に設立されました。

会員は、北広島市生活学校、北広島消費者協会、北広島商工会女性部及び北広島市の 4 団体です。

平成 24 年度は、主に「エコ講座」を開催し、小学校 2 校の総合学習の時間に高学年を対象にクイズ等を交えて省エネの重要性やごみ処理の問題点など環境問題全般について説明をしました。

また、6月には、北広島市ふれあい学習センターにおいて「北広島環境ひろば2012」を開催しました。

このイベントでは小中学生から募集した地球温暖化に関する標語やポスターの展示、LED スタンド工作体験、エコクッキングのレシピ紹介と試食を行いました。参加団体、企業による省エネグッズ・省エネ関連製品の展示や即売も行われ、楽しく遊びながら地球温暖化防止への理解とその対策を意識するきっかけをつくるイベントとなりました。

「エコ・パートナーシップ北広島」では、これからも講座やイベントを通して地球温暖化防止のみならず広く環境保全活動を推進していくこととしております。



2 自然観察会の開催

石狩振興局では、平成24年7月31日に北広島市との共催で、北広島市の北広島レクリエーションの森において自然観察会を実施しました。

当日はボランティアレンジャーの解説により、自然のしくみや野生動植物の知識を深めながら、植物や野鳥、昆虫などの観察を行いました。スズメバチの模型を用いながら、スズメバチから身を守る方法や、マイマイ蛾の幼虫を手に取りながら生態について説明するボランティアレンジャーのお話に熱心に耳を傾ける小学生の姿も見られ、約2時間の観察の中で、自然に対する興味をより深めていました。

今後も、石狩振興局では、市町村などと連携を図りながら、自然観察会などを通じて道民の自然環境への保全意識を高める活動に取り組むこととしています。



3 セイヨウオオマルハナバチ防除研修会の開催

「特定外来生物」であるセイヨウオオマルハナバチが野生化し広がりつつあるため、道では、ボランティアとして「セイヨウオオマルハナバチバスターズ」を募り、全道各地で防除活動を進めています。

石狩振興局管内でも、多くのセイヨウオオマルハナバチが確認されており、「バスターズ」の皆さんが防除を行っています。完全に防除するにはまだまだ大変な努力が必要となっています。

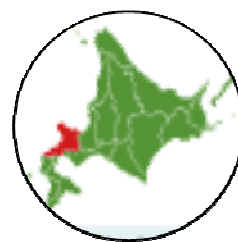
このため、石狩振興局では、より多くの皆さんに防除活動にご協力いただくよう、平成24年5月28日に恵庭市で研修会を開催しました。

当日は、22名の参加者が集まり、セイヨウオオマルハナバチの生態や識別方法などを学んだ後、それぞれ捕虫網を使って捕獲作業を行いました。その結果、約1時間で80頭を捕まえることができましたが、想像以上にたくさん生息していることに参加者も驚いた様子でした。

今後も、石狩振興局では、市町村や企業・団体などの協力を得ながら、セイヨウオオマルハナバチの防除活動に取り組むこととしています。



＝【後志】＝



1 環境教育「白衣レンジャー」の開催

未来を担う子供たちが環境や科学に興味を持ってもらうことを目的に、7月5日～6日に倶知安町と黒松内町の幼稚園や小学校で環境教育を実施しました。

子どもたちは、水や臭いの実験を通して水や空気のごとの原因を学び、自転車発電で電気を生み出すことの大変さを体験したほか、エネルギーの有効活用の大切さを学びました。

環境保全の大切さを学んだ子供たちには、レンジャー隊員証が交付され、一人ひとりが日常でもできる環境保全行動の実践を誓っていました。



2 全日本スノーボード技術選手権大会における地球温暖化防止普及事業

3月14日～17日にルスツリゾートで開催された大会において、開会式及びホテルロビーで地球温暖化防止パネル展を開催したほか、ホテル内や大会会場周辺で「のぼり」により地球温暖化防止推進行動を呼びかけました。

また、出場選手一人ひとりが地球温暖化防止に係る環境宣言をし、選手が滑走している最中にDJがその宣言を各会場（コート）で読み上げて啓発を行いました。

■えこ之助も一緒に滑りました！

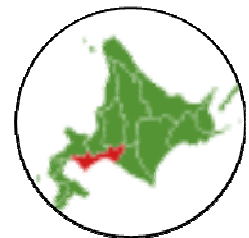


3 希少魚種イトウの保護活動

「尻別川の未来を考えるオビラメの会」（会長：草島清作）では、生息の南限とされ、絶滅寸前ともいわれる尻別川のイトウの地域個体群復元に向け様々な取組を実践してきており、平成24年度も稚魚の放流とモニタリング調査、繁殖地と親魚の保護を目的とした繁殖期の「見まもり隊」活動を24時間体制で実施しました。



＝ 【胆振】



1 地球温暖化防止など環境保全に向けた取組

胆振総合振興局では、平成20年7月に開催された北海道洞爺湖サミットを契機とした地球温暖化防止に向けた気運の高まりを今後も継続的なものとするため、様々な取組を行っています。

(1) 「いぶりガイアナイト2012」、「いぶりウォームビズ・フードマイレージ」の開催

7月7日の「クールアースデー」が多くの道民に地球温暖化について考え、行動するきっかけとしていただく日となるよう、7月5日にむろらん広域センタービル前において、「いぶりガイアナイト2012」を開催し、約800個のキャンドルを点灯するとともに、紙芝居やハンドベルミニコンサートを通して、環境問題について考える時間を過ごしました。



また、室蘭の象徴でもある測量山と白鳥大橋のライトダウンを行い、地域一体となったイベントを行いました。

冬（12月～1月）には、市内2ヶ所の会場において、職場や家庭で容易に取り入れることができる「ウォームビズ」、食からのCO₂排出削減の取組「フードマイレージ」の考え方などについて啓発するイベントを行いました。

(2) NPO 法人等の取組

管内ではNPO法人や各団体等も様々な環境保全活動を行っており、胆振総合振興局も協働で取組を行っています。

NPO 法人室蘭地域再生工場

環境をキーワードにまちづくりを進めており、さまざまな取組を行っています。

- ・地域FM放送で毎週環境番組「得するエコ」を放送中。
この放送は、放送開始から4年目に入り、放送回数は、150回を超えています。
- ・親子向けと一般向けに、地元の環境産業に特化したエコツアーを開催しています。
- ・省エネクッキングセミナーとして、保温調理をキーワードに地場産品を料理することにより、省エネルギーを楽しみながら身につけるセミナーを開催しています。
- ・低炭素化社会の実現に向け、環境に優しく潤いと彩りのある地域を目指して菜の花を活用したプロジェクトを立ち上げ、先進地の視察、一般市民向けにフォーラムを開催、また、室蘭市内の原野に菜の花の種付けを行いました。

■エコツアー



NPO 法人ビオトープ・イタンキ in 室蘭

ビオトープ（生物群の生息場所）づくりを進め、身近な自然の復元を図る事業を行っています。

造成されたビオトープはトンボ捕りや魚すくいなど、子ども達の自然体験が可能な「獲物のあるビオトープ」として、小学校の体験学習に活用されています。

7月下旬には、一般市民向けにビオトープで繁殖したホタルの観察会を開催しています。



室蘭イタンキ浜鳴り砂を守る会

室蘭イタンキ浜の鳴り砂を後世に残すため、浜の清掃活動のほか学校などで子ども達に鳴り砂の大切さを教える活動を行っています。



2 自然との共生と有効利用

野生鳥獣対策

エゾシカは、胆振を含む北海道西部地域においても、農業被害や度重なる交通事故など、様々な問題を引き起こしています。

このため、振興局の独自事業により、管内の学識経験者や狩猟者などからなる「エゾシカ対策ワーキンググループ」を設置し、3回にわたって狩猟者による捕獲が進まない理由、市場への流通が少ない状況や望ましい形の有効活用などを検討するとともに、捕獲から解体処理、販売、消費までの分析を行いました。

また、エゾシカ被害防止のため、捕獲に必要な狩猟免許取得を推進する出前教室を6回実施し、被害を受けている方など151人が受講しました。受講者が、今後狩猟免許を取得し、地域におけるエゾシカなど有害鳥獣の捕獲体制強化につながることを期待されます。

民間独自の取組としては、エゾシカの捕獲や有効活用を進めるため、社団法人北海道猟友会室蘭支部の主催により、エゾシカ肉を地域住民に試食していただくイベントが開催され、ディアシチュー400食が提供されました。

このほか、地域からの要望に応じて、「ヒグマ対策研修会・講習会」を開催したり、講師派遣を行い、ヒグマの生態のほか、ヒグマによる被害や捕獲状況などのデータに基づき、人身事故や農作物等の被害防止、ヒグマとの共存などについて説明しました（計6回、247名受講）。

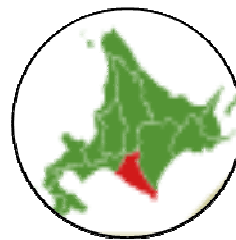
■エゾシカ解体研修



■ディアシチューの試食イベントは大盛況



＝ 【日高】

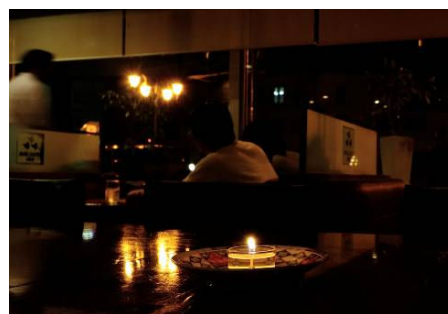


1 地球温暖化防止に関する取組

日高振興局では、住民の皆さんに地球温暖化防止の意識を高めていただくため、北海道クールアース・デイの取組として、平成24年7月5日の晩に、町内飲食店等35店の協力によりライトダウン&キャンドル点灯営業を実施しました。

また、その様子を紹介する写真展を日高振興局と浦河町総合文化会館で開催するとともに、家庭でライトダウンとキャンドル点灯を楽しんでいただけるようキャンドルの配布を行いました。

■飲食店でのライトダウン&キャンドル点灯



2 アポイ岳の高山植物保護の取組

日高山脈襟裳国定公園の南部に位置する様似町のアポイ岳は、810mという低標高ながら、ヒダカソウやエゾコウゾリナなどの固有種をはじめ多くの高山植物が生育する「花の山」として知られており、この高山植物群落は、国の特別天然記念物にも指定されています。しかし盗掘や登山者による踏みつけに加え近年、ハイマツなどの進入による生育地の減少やエゾシカの食害もあって急速にその数を減らしています。

こうした中、アポイ岳の自然環境保全に取り組む民間団体の「アポイ岳ファンクラブ」に町や研究者などが加わり、平成17年に設立した「アポイ岳再生委員会」では、5合目付近に高山植物の再生試験地を設け、これまで下草の除去や種子を播くなどの再生活動を進めてきました。平成24年春には、初めて、家庭で種子から育てた高山植物の苗を試験地に移植するなど、貴重な高山植物の再生に向けた取組を進めています。

■再生試験地への高山植物の移植作業



■試験地で成長する固有種「エゾコウゾリナ」



3 エゾシカ対策について

日高管内でも、エゾシカの農林業被害は増大しており、地域の課題となっています。

このため、管内各町が連携し、エゾシカ駆除の奨励金を統一するなどの取組により、エゾシカの

捕獲数は増加し、一定の成果を上げています。

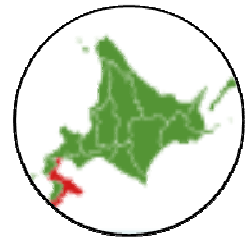
また、平成24年10月19日には、(社)北海道調理師会 浦河支部と日高振興局の共催で、「ホテルの総料理長から学ぶエゾシカ肉料理の試食会」を開催し、80名の方に参加いただきました。

今後もこのような取組を通じ、エゾシカの捕獲体制を強化するとともに、食肉として利用することにより、地域資源としての活用や廃棄物の減量を図ります。

■ホテルの総料理長から学ぶエゾシカ肉料理の試食会メニュー



＝【渡島】＝



1 環境学習「こねこね木の鉛筆づくり」

行政、市民団体等で構成される「環境フェスティバル実行委員会」の主催による「はこだて・エコフェスタ」は、道南最大級の環境イベントです。平成24年は、「エコライフ！エコライク！～みんなの意識が環境を守る～」をテーマに開催され、約7,500人の来場者がありました。

渡島総合振興局は実行委員の一員として、子どもを対象とした環境学習コーナーを担当し、おがくずをリサイクルした粘土で鉛筆を作る「こねこね木の鉛筆づくり体験」を出展しました。参加者は環境について考えながら、好きな動物やアニメのキャラクターをかたどるなどして、鉛筆づくりを楽しみました。



2 学生による「エゾシカカレープロジェクト」

及びエゾシカカレーエバンジェリスト協会の活動について

平成23年2月、函館大学・函館短期大学付設調理製菓専門学校では、「はこだてスローフード物語」の創造を目指し、「はこだて新グルメ開発プロジェクト」を発足しました。

このプロジェクトでは、郷土の料理・特産物・食文化等などを検証し、道南地域に相応しい新グルメを創り出すことを目的に掲げ、翌平成24年2月、試食会・アンケート調査などを経て、エゾシカカレーを新グルメとして決定、一般家庭へのエゾシカ肉普及の可能性と重要性を提案していくことにしました。

エゾシカカレーの普及のため、協会の審査を受け合格基準に達した方を「エゾシカカレーエバン

ジェリスト」に認定し、認定されたエバンジェリストは、各自が調理技術について研鑽を積み、さらなる普及拡大を図ることになっています。

また、エバンジェリスト以外の活動として、学生の皆さんが、エゾシカ肉の価値を高めるため、顧客ニーズを把握するなどして、より効果的なマーケティング・プランを立案することにより、今後の成果が期待されます。

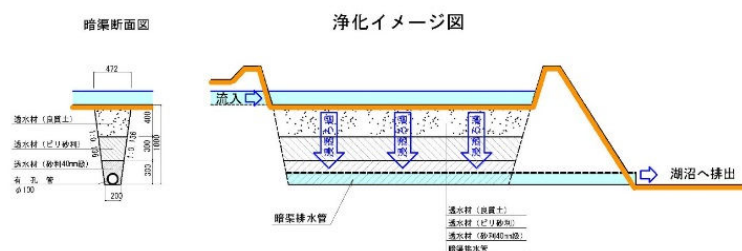
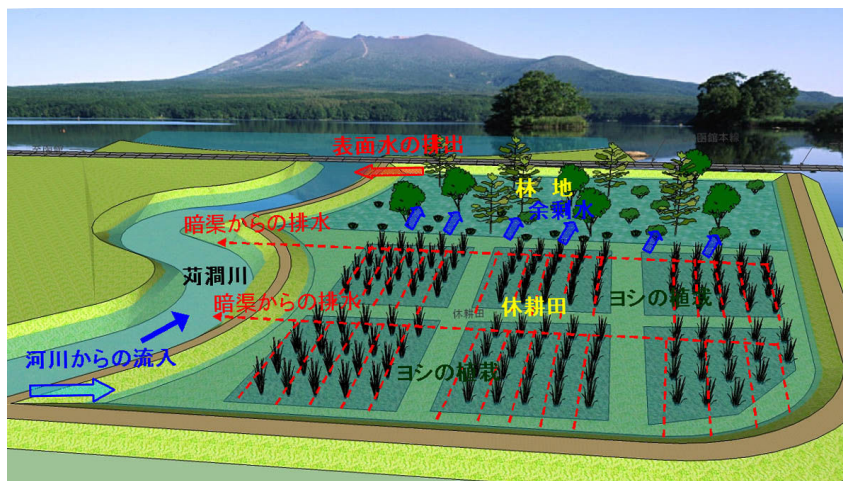
3 湖沼自然浄化活用事業（七飯町）

平成 24 年 7 月、大沼をはじめとした湖沼群周辺が、道南初のラムサール条約湿地に登録されました。美しい景観と多様な生態系で知られる大沼は、海外からの観光客も多く、町の重要な観光資源でもあります。

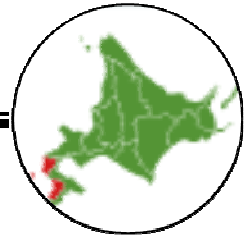
しかしその一方で、富栄養化による水質悪化が問題視されており、特に夏季に発生するアオコは生態系への影響や観光地としてのイメージを大きく損なうものとなっています。平成 7 年には「北海道湖沼環境保全基本指針」に基づく重点対策湖沼に指定されたことを受け、七飯町では「大沼環境保全協議会」を設置し、水質の改善と良好な自然環境の保全に取り組んできました。

水質悪化の主な要因は、流入する河川からの栄養分が蓄積するためであり、その解決に向け、町では環境省の「湖沼自然浄化事業」により、平成 23 年度から自然浄化機能を活用した水質浄化事業を実施しました。これは、流入河川の一つである苅澗川下流に隣接する遊休地にヨシを植栽した浄化エリアを造成し、河川の水を引き込み、自然の土石を利用したろ過層により、浸透の際に COD や栄養分を吸着させ、浄化した水を暗渠により河川へ戻すという方法です(下図参照)。平成 24 年の実証実験の結果は良好であり、大沼の水質改善策の一つとして期待されます。ただし、浄化エリアに窒素やリン等が蓄積されることから土壌調査や管理が必要です。

■イメージ図



＝【檜山】



1 ひやまりサイクル工作コンクールの実施

管内の小学生を対象に、身のまわりの不要品を再利用した工作を通じて「物をできるだけ長く使う」、「資源はリサイクルする」という意識の普及啓発を目的に実施しました。

15 回目の開催となった平成 24 年度は、管内 20 校から 370 点のすばらしい作品の応募があり、管内 7 町（8 ヶ所）で作品の展示会を開催しました。

■ひやまりサイクル工作コンクール2012展示会



2 動物愛護“愛犬ふれあいミーティング”の開催

犬同士がふれあえる場所として、一般の飼い主さんに振興局前庭を開放し、愛犬ふれあいミーティングを開催しました。

芝生の上で飼養に関する有用情報の交換をしたり、犬の社会性を向上させたりすることにより、動物の愛護と管理に関する意識を高める普及啓発を行いました。

■愛犬ふれあいミーティング



3 土橋自然観察教育林月例観察会（厚沢部町）

厚沢部町では、土橋自然観察教育林をフィールドとし、「春の植物」や「セミの羽化」などをテーマに、自然観察を行いました。

実施回数 年 12 回（毎月第 4 日曜日開催）

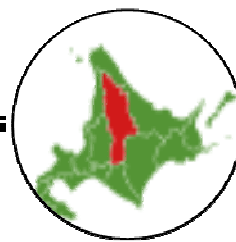
参加者 約 145 名（平成 24 年 9 月～
平成 25 年 3 月開催分合計）

■5月定例観察会「ミクロの世界を探検しよう」



ルーペを持って森の中を探検！

決められた狭い範囲をルーペで探索する「ミクロハイク」をしています。



1 「エコアンドセーフティ・ドライブキャンペーン in あさひかわ」の実施

エコドライブは、交通事故防止につながるという視点から、「地球温暖化対策と交通安全」を広く地域住民に啓発することを目的に、上川総合振興局・道警旭川方面本部が中心となり、平成 24 年 8 月 26 日に、北海道クミアイ自動車学校において「エコアンドセーフティ・ドライブキャンペーン」を開催しました。当日は、エコドライブ講習やエコカーの展示試乗会のほか、衝突防止システムの体験試乗、道警の白バイや「上川ご当地交通安全隊」による交通安全啓発も行いました。

エコドライブ講習では、エコドライブのポイントを学ぶ座学講習のほか、実車による燃費計測を行い、受講前後の運転状況を比較することで、各参加者それぞれに燃費改善点をつかんでもらうなど、受講効果の高い内容となりました。



2 「クリスマスキャンドルナイト 2012」の実施

電気照明を落とし、キャンドルによる「ほの明かり」のもと、家族団らんやスローな夜を過ごすことでエネルギーについて考え、地球温暖化対策につなげることを目的として、平成 24 年 12 月 21 日に、NPO 法人旭川 NPO サポートセンター主催による「キャンドルナイト 2012」が、旭川市市民活動交流センター「CoCoDe」で開催されました。当日は、クリスマス用のローソク作り、レコード鑑賞やゴスペルの合唱を聞いたほか、環境忍者えこ之助が登場し「ほっかいどう・省エネ 3S キャンペーン冬の陣」について参加者皆さんのご協力をお願いするなど、有意義な一夜を過ごしました。



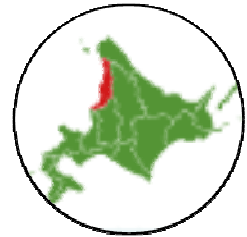
3 「エコフェスティバル」の実施（旭川市）

旭川市では、NPO 法人旭川 NPO サポートセンターと共催で、家族みんなで環境について学べる「エコフェスティバル」を平成 24 年 10 月 20 日に、旭川市市民活動交流センター「CoCoDe」で開催しました。

旭山動物園坂東元園長の「野生動物から環境を考えよう」の講演を始め、省エネ機器の展示、エコカーの試乗、エコバック作り、エコクイズラリー等家族みんなが楽しめるフェスティバルとなりました。



＝【留萌】



1 増毛山道再生事業の実施

暑寒別天売焼尻国定公園の急峻な断崖の増毛海岸を貫く国道 231 号線は、昭和 56 年に全通しましたが、かつて、交通の難所とされたこの区間を迂回すべく、江戸幕府の命を受け、増毛の漁場を請け負っていた商人「伊達林右衛門」によって開削されたのが増毛山道です。

この山道は、昭和 20 年頃以降、いつしか草木に埋もれていましたが、平成 22 年までに、留萌振興局の独自事業として、増毛町別荘～岩尾間 16km を復元しました。

豊かな自然はもちろんのこと、郵便物の中継や宿場として利用された武好駅跡地、当時の電信柱、1 等水準点など、今も残る増毛山道の歴史等について広く道民に発信するため、増毛山道体験トレッキング（16km フルコース、5km ミニコース）～増毛山道 蘇る道を歩く～を NPO 法人増毛山道の会と共催で開催しています。

NPO 法人増毛山道の会による山道のメンテナンスや親切、丁寧なコースガイドと歴史等の解説のほか、ケガなど、万一の際のサポート体制もしっかり行っています。

■年々人気上昇中の増毛山道体験トレッキング



また、平成 24 年 10 月 26 日に北海道留萌合同庁舎 2 階講堂で「山道サミット in 留萌 2012」を開催し、全道の主要山道のうち 4 つの関係団体が集まって、各地の山道を活用した先進的な取組の事例発表などを行いました。

■大いに盛り上がった山道サミットin留萌



2 エコ★クリスマスの開催

留萌振興局では、「地域の方が「ぶらり」と寄って「ほっと」できる、親しみのある庁舎づくり」をコンセプトに、平成 23 年から「よりみちの駅」事業を実施しています。平成 24 年度にはその一環として 12 月 15 日に、庁舎内にて「エコ★クリスマス」を開催しました。

イベントでは、小学生を対象に、太陽や風の力などの自然エネルギーを使って電気を作る実験を通して、エコ発電について知ってもらう体験学習や、余熱を使った保温調理と電気炊飯器による炊飯を併行して行い、エネルギーの節約量を比較したり、実際に食べ比べてもらう省エネクッキング講座など、エコについての普及啓発を目的としたイベントを行いました。

また、クリスマス・リースやツリー・オーナメントづくり、よりみちバンドによるクリスマスメドレーの演奏など、来場者とともにクリスマスを楽しんだイベントとなりました。

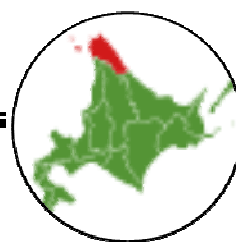
■エコ発電体験学習



■クリスマス・リースづくり



＝【宗谷】



1 宗谷自然観察会（サマーバスツアー）の開催

環境保全意識を持って主体的に行動できる人づくりを推進するため、平成 24 年 8 月 15 日に北オホーツク道立自然公園のクッチャロ湖とベニヤ原生花園において、自然観察会を開催しました。

昼食時には、エゾシカ肉の料理の提供や、ベニヤ原生花園では浜頓別町の小学生達がジュニアガ

イドとして、参加者に対し花のガイドを実施するなど、宗谷地域の豊かな自然環境を知るだけでなく、自然環境を取り巻く問題や地域の環境保全への取組などを知る貴重な機会となりました。



2 エゾシカ肉の有効活用

宗谷管内でも、エゾシカによる被害が増加しており、それに伴い捕獲頭数も年々増加してきています。

宗谷総合振興局では捕獲個体の有効活用を進めるため、地域の方にもっとエゾシカ肉を身近に感じてもらい、食べるきっかけを増やすことを目的に、エゾシカ肉を提供している飲食店や加工品の販売店を掲載したパンフレットを作成し配布しました。

また、家庭でも気軽にエゾシカ肉を食べてもらうため、一般の方を対象に料理教室を開催するなど、エゾシカ肉の有効活用に取り組んでいます。

そんや エゾシカ肉飲食店ガイド

詳しくはこちら

→<http://www.souya.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kks/ezoshikaguide.htm>



安心・安全なエゾシカ協会のエゾシカ肉が食べられるお店を紹介します!~

3 サロベツ地域の清掃活動の実施

NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワークでは、毎年春から秋にかけて地域の方に呼びかけ、利尻礼文サロベツ国立公園内のサロベツ地域の清掃活動を実施しています。

6月中旬からエゾカンゾウやエゾスカシユリ、夏にはハマナス等が咲き乱れる稚咲内（わかさかない）海岸や、ラムサール登録地であるサロベツ湿原を流れるサロベツ川及びその周辺にあるペンケ沼が対象です。

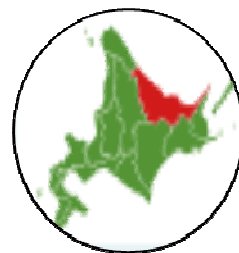
稚咲内海岸は、冬に日本海から吹き付ける季節風により、毎年多量のゴミが漂着しており、また、サロベツ川、ペンケ沼については、昭和初期に実施された排水路整備により大量の土砂とともに生活ゴミなどが流れてくるようになり、毎年、ゴミを拾っているにも関わらず、その量は一向に減りません。

それでも、毎年、延べ 100 人以上の参加があり、稚咲内は約 17km の海岸線を、サロベツ川、パンケ沼についてはカヤックを活用しながら清掃しています。

今あるゴミを全てなくすことはできませんが、今後も継続して取組を実施することにより、ゴミの減少はもちろんのこと、地域の環境保全に対する意識向上に貢献していく予定です。



＝【オホーツク】＝



1 オホーツク自然の守人（まもりびと）宣言

オホーツク総合振興局、管内全市町村、関係機関等で構成するオホーツク地域廃棄物不法処理対策戦略会議（以下「戦略会議」という。）の取組として、不法投棄やポイ捨てを「しません」、「させません」、「許しません」を共通のスローガンに掲げ、平成 21 年 3 月に管内全市町村長の署名による「オホーツク自然

の守人（まもりびと）宣言」を行い、横断幕の掲示や、宣言に賛同する企業等の募集などを通じて、宣言の浸透と地域における自発的な取組の促進に向けた各種啓発を行っています。

平成 25 年 3 月末現在、58 の企業等が宣言の趣旨に賛同し、オホーツク自然の守人（まもりびと）として、地域の豊かな自然環境を後世に引き継ぐため、環境保全活動などに取り組んでいます。

■オホーツク自然の守人宣言



2 網走国定公園小清水原生花園における「火入れ」

「火入れ」とは、花の生育を妨げる枯れた牧草類を除去するために行うものです。

小清水原生花園は、ハマナスやエゾスカシユリなどの鮮やかな色彩の花が咲き誇る景勝地として網走国定公園に指定され、かつては特に人為的な対策をとらなくても美しい景観が維持されていました。

しかし、昭和 55 年頃から小清水原生花園の全域で外来牧草類が目立つようになり、すぐれた景観が損なわれはじめたため、平成 5 年からオホーツク総合振興局、小清水町、網走南部森林管理

署などが協力して火入れを実施し景観の回復に努めています。

東西に長い原生花園を4区画に分け、毎年場所を変えながら火入れを行っており、平成25年度は4月25日に原生花園駅から網走寄りの場所約15haに火入れを行いました。



3 西興部村猟区における地域管理の取組 ～猟区制度を用いたエゾシカ地域管理～

西興部村では、平成16年から全村を「猟区」に設定しています。「猟区」とは、入猟者数・入猟日・捕獲対象鳥獣の種類・捕獲数などについて管理者が独自の管理をすることができる制度であり、地域にあった独自の鳥獣管理を行うことができます。

当猟区では、1日の入猟を2組以内に制限し、地元ガイド同伴を義務づけているため、安全で捕獲率の高い猟場となっています。

また、野生動物管理の担い手としての次世代ハンターを育成するため、初心者ハンターまたは狩猟や野生動物に興味のある方を対象としたハンティングスクールや大学生を対象とした学生実習も行っています。

■入猟で捕獲されたオスシカ



■学生実習での解体実習



■エゾシカエコツアー



■子供自然教室（興部川の調査）

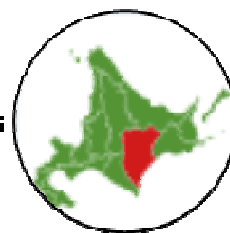


平成24年度は、猟銃を所持していない人向けにも、2泊3日の「エゾシカエコツアー」を開催し、夜の動物観察やエゾシカ狩見学、シカ皮ストラップ作り、ジビエ料理教室など、エゾシカの多様な魅力と西興部村の雄大な自然を体験してもらいました。

また、地域の子供達を対象に自然の豊かさを伝えると同時に郷土に誇りをもってもらうために「子供自然教室」も毎年開催しています。

また、エゾシカ個体群管理による農林業等被害の抑制や野生動物地域管理システムの構築に向けて、生息数調査などの調査研究事業も進めています。

＝【十勝】＝



1 「もっとエコなとかちづくり」～ エコライフの定着促進をめざした取組 ～

(1) エコに関する普及啓発

十勝総合振興局では、「もっとエコなとかちづくり」を合言葉に環境保全の取組を行っています。

地球温暖化防止活動推進員や環境活動の達人として登録している「とかちエコマエストロ」を講師として招き、水辺の観察会やペレットの石釜を使用したピザ作りなどの体験学習のほか、地元商店街等と協力し、ピアガーデン会場でのガイアナイトを開催しました。

「もっとエコなとかちづくり」が地域に根付いた取組となるよう、管内市町村や地域住民、団体等と連携し今後も様々な取組を行っていきます。

■「とかちエコマエストロ」を講師に招いた水辺の観察会



(2) 「環境学習日帰りバスツアー」の実施

十勝管内の小学生を対象として、エコな取組を行い、視察・見学が可能な企業等を紹介した「とかちエコマップ『ふわなび!』」に掲載のバイオガス発電施設を備えた「鹿追町環境保全センター」の見学をはじめ、搾乳体験や食の地産地消など、地域の産業や生活に密着した内容を取り入れた環境学習ツアーを実施しました。

■バイオガス精製について学習



2 「環境モデル都市おびひろ」からはじまる「エコ」な自転車ライフ

低炭素社会の実現に向け高い目標を掲げて先駆的な取組を行う「環境モデル都市」に選定されている帯広市では、十勝管内の平坦な地形を活かしたイベント「とかちサイクリングフェスタ」を実施しました。

子どもから大人まで幅広い世代の方に、自らの足で無理なく十勝の「景観・遊・食」の魅力を五感で楽しむことができる自転車ツーリングを通して、環境にやさしい自転車の利用促進を図っています。

■自転車ツーリングを楽しむ参加者



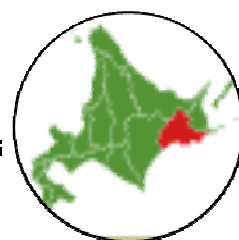
3 緊急雇用創出推進事業から生まれた農業被害防止への新しい取組

平成 23 年度に緊急雇用創出推進事業を活用して実施した「エゾシカ侵入防止柵現況調査及び捕獲技術検証業務」で雇用されていた従事者のうち2名が、業務で習得したくくりわなによるエゾシカの捕獲技術を活用し、地域の農家から依頼があった場合に、くくりわなを用いて駆除を行う会社を昨年4月に設立しました。

昨年は、浦幌町内の農家 12 戸から依頼を受け、5～10 月までの期間で 48 頭を捕獲し、深刻なエゾシカ被害から農地を守り、地域に貢献しています。



＝【釧路】



1 北海道クールアース・デイの取組～「くしろガイアナイト 2012」の開催

平成 24 年 7 月 7 日に、「北海道クールアース・デイ」の取組として、釧路フィッシャーマンズワーフ MOO において、「くしろガイアナイト 2012」を開催しました。

地域のまちづくり団体によるハンドベルの演奏、ライトダウン&キャンドル点灯式に続き、釧路交響楽団のトロンボーン奏者とピアノ伴奏によるミニコンサートを行いました。

来場された方々は、キャンドルの穏やかな灯りと音楽とが織りなす幻想的な雰囲気の中、地球環境のことなど、それぞれ想いをめぐらせていました。



2 釧路・根室地域の広域連携による「自然の番人による環境行動促進事業」

～「自然の番人による環境行動・学習事業 2012」の開催

釧路・根室地域では、住民が、廃棄物の不法投棄やごみのポイ捨てなどから自然環境を守り、次世代へ引き継ぐことを目的に「自然の番人宣言」をしています。

釧路総合振興局は、根室振興局とともに、「自然の番人宣言」の思想の普及や、地域の自然環境の豊かさと環境保全の必要性について理解を深めてもらうことを目的に、平成 24 年 10 月 22 日

に、釧路市内の中学校で、次世代を担う生徒達を対象に、自然保護をテーマとした講演会と古新聞を利用しエコバッグを作る体験学習を開催しました。

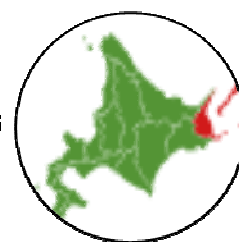
■講演会



■エコバッグ作り



＝【根室】



1 エコメッセ 2012 in ねむろの開催

地球温暖化等の環境問題を身近なものとして考えてもらおうと、平成 24 年 10 月 27 日にエコメッセ（見本市）を開催しました。

リサイクル製品の展示のほか、発電機付き自転車による発電体験や牛乳パックからハガキを作る体験を実施し、楽しみながら環境について考える場となりました。

また、温室効果ガスを測定している「地球環境モニタリングステーションー落石岬」の見学会を行い、参加者からは、「海が二酸化炭素を吸収していることを知り、大変勉強になった。」などの感想が寄せられました。

■モニタリングステーション見学会



■牛乳パックでハガキを作る体験



2 ねむろバイオマスフォーラムの開催

根室地域における家畜ふん尿によるバイオガスプラントの導入を促進するため、平成 25 年 2 月 8 日に「ねむろバイオマスフォーラム」を開催しました。

北海道バイオマスリサーチ(株)の職員からは、全道の自治体や農協などへのアンケート結果で、

バイオガスプラントの普及を阻害している要因として、「建設コストが高い。」「修理費がかかる。」との回答があげられていたため、低コストで地元企業によるメンテナンスが可能なバイオガスプラントを開発中という話がありました。

ホクレン農業総合研究所の職員からは、バイオガスは、太陽光や風力に比べ、エネルギー生成の安定性が高いこと、家畜ふん尿用のバイオガスプラントは、建設費の補助がなければ売電だけでは利潤が発生せず、副産物（消化液や敷わら）の利用によって経済的に成立することなどの話がありました。

出席者からは、「ドイツに比べ、日本のバイオマス発電は遅れているのか?」「消化液は、どの程度まで散布可能か?」など多くの質問があり、関心の高さがうかがえました。

■バイオマスフォーラム



3 「ねむろ自然の番人宣言」について

世界自然遺産である知床やラムサール条約登録湿地である風蓮湖・春国岱、野付半島・野付湾など、根室地域は、特色ある貴重な自然環境を有しており、その恵みを受けて漁業、農業が営まれています。

廃棄物の不法投棄、ゴミのポイ捨てから自然環境を守り後世へ引き継ぐため、管内の住民が自然の番人となって立ち上がり、自らを律し行動することを目的に、平成 20 年 2 月、管内すべての市町長により「ねむろ自然の番人宣言」が調印されました。

平成 25 年 3 月 31 日現在、根室管内の 85 の企業等が「ねむろ自然の番人宣言」推進委員会の認定団体となっています。

これからも環境教育を充実させ、広くこれらの思想普及を目指し、関係機関と連携することとしています。

■「ねむろ自然の番人宣言」ポスター



4 風蓮湖流入河川連絡協議会の活動について

風蓮湖は、根室半島の付け根に位置し、走古丹と春国岱の二つの砂洲が根室湾と隔てている汽水湖です。水産資源が豊富で、多くの野鳥の生息地であり、平成 17 年には「風蓮湖・春国岱」としてラムサール条約湿地に登録されました。

風蓮湖は、かつてシジミの産地でしたが、水揚量が減少し、平成 12 年以降は禁漁となっています。土砂の流入や水質の悪化などが原因といわれています。

このため、風蓮湖とその流域の水環境を改善するため、風蓮湖周辺の住民、JA 及び漁協などが中心となり、平成 16 年に「風蓮湖流入河川連絡協議会」が設立され、風蓮湖流域の様々な団体や関係者とともに環境保全活動を行って

■風蓮湖船上視察でのシジミの生育調査



います。

平成 17 年から毎年、家畜ふん尿の流出防止のため、風蓮川流域で植樹活動を行い、これまでの活動による植樹の本数は、12,000 本を超えました。

また、地域の幼稚園児や高校生と共に、どんぐりから苗木を育て、次世代を担う子どもたちへ自然の大切さを考えてもらう取組を行うほか、開催した行事の写真などを入れたカレンダーを作成し、地域みなさんに協議会の活動紹介と河川環境に対する啓蒙活動を行っています。

毎年 9 月に行っている「風蓮湖船上視察」では、確認できるシジミの生育数は少ないものの、水のおいに変化があり、目視による水の透明度が増していることから、湖がきれいになっていることを実感しています。

平成 24 年には、「風蓮湖流域水環境保全計画」を策定し、「森と川と海はひとつ」を合い言葉に、次世代へかけがえのない自然を継承していくための活動を行うこととしています。

■風蓮湖流入河川連絡協議会の植樹祭

